

居合道 だより

第178号





はじめに

山々の新緑が目には染み、ヤマフジのほのかに香る紫が皐月の青い空に映えている。新しい生命の息吹さえ聞こえて来るような風の音、さわやかな季節になった。

今から 30 数年も前の頃、少年剣道の全盛期、ある少年剣道大会プログラムの裏表紙にそれは綴られていた。不覚にも現物は紛失し書き留めもしなかった。

読んだ瞬間、衝撃を受けた。誰が著したのか知らない。昔の有名な剣豪なのか、はたまた現代のコピーライターなのか。当時から今まで、ずっとそのことにはこだわっていない。

あるとき、もうこれを最後にしようとして密かに決めて訪れたヨーロッパのある国で、講習会の締めくくりとしてその言葉を用いた。

そうしたら受講生の一人が『先生、それって武蔵の言葉ですよ。』と言った。

『えっ、そうなの？知らん。』と正直に答えた。その真偽は未だに分からない。

そんなことはどうでも良かったからである。たとえ武蔵であろうと一介のコピーライターであろうと、その言葉の持つ意味、重みは全く変わらないからである。

その言葉と出会ってから数十年の間、ずっとその言葉が、自分の居合はおろか人生の支えとなってくれた。

前回の居合道だよりでお知らせしたように、小生はこの回で筆を置きます。

振り返ってみたら延々と 109 回も駄文を書き連ねてきたことになる。

毎回剣友の皆様を励ますために書いてきたつもりだったが、実は自分自身では分かっていた。

そうではなかったのである。ただただ心身共に衰えていく己自身を、叱咤激励するためにだけ書きなぐってきたのだと。

お釈迦様は、人間には 108 の煩惱があるとお教えくださる。その煩惱のひとつひとつを消し去ろう、打ち克とうとあがき続けて書き連ねてきた九年間であった。そして普通の人間よりも一つだけ煩惱の数が多い筆者は 109 回も書き綴ったという訳だ。しかしこれらの煩惱は間違いなく命果てるまで続いていくことだろう。道遠し、であるからして。

最後に、剣友の皆様方に心よりの御礼をこめて、その言葉を紹介します。

進歩の階段は 決して目に見えるものではない
昨日より今日 今日より明日へと 願う気持ちとは裏腹に
いつまでも足踏みをしている自分を 腹立たしく思うときがある
しかしその苦しみの毎日こそが 輝きの日々につながる
ただひとつの 道 なのである

感謝

井手 友太

五・六月の予定

5月3日(月・祝) 居合道八段審査会 京都市

未定 居合道部理事会・総会 未定

6月 12 土 (公社)福岡県剣道連盟 「総会」福剣連 ホテルサンライン福岡

19 土 福岡県居合道高段者(五段以上)講習会及び称号講習会

福剣連 福岡武道館

25 金 居合道段位審査会(六段・七段)全剣連 大分県

26 土 居合道地区講習会 全剣連 大分県

27 日 居合道地区講習会 全剣連 大分県

未定 第53回福岡県居合道大会

編集後記

井手先生、長きにわたる「はじめに」の執筆ありがとうございました。

編集人のわがままに付き合っただけでしたこと、心より感謝申し上げます。

引き続き監修の方お願い申し上げます。

世の中ではコロナが蔓延して早1年、終息どころか変異種まで猛威を振るいひどくなっている印象を受けます。いつになったら思いっきり稽古できることやら。

若年層も感染と死亡のリスクが増大してきて、テレビで出てくる専門家は若者に向かって警告を発する「なめてると本当に死ぬよ?!」と。

そんな状況に反して映画「鬼滅の刃」が空前の大ヒット、それを見て憧れる少年が居合道の門を叩くという事例が増えている。私どもも少年が5名ほど増えました。

実はまだ見てないんですよ……。

少年たちにとって「流派」とか「形」などの言葉に響くようで、技名や刀の名称なども目をキラキラさせて聞いている。

きっと将来はこういう子達が道場や福岡県、日本の居合道(その精神も)を背負って立っていくのでしょう。指導する方も丹田に力を入れて、自分自身も子供たちに習っているつもりで共に修行しなければと、身の引き締まる思いです。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第178号 令和3年5月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW